

独立行政法人福祉医療機構(WAM)が行う社会福祉振興助成事業「障がい福祉、医療、教育、地域住民の連携事業」を終えて

貴機構からの助成を受ける決定の連絡をいただいたのは、まだ雪が残る季節でした。私達は実りある事業展開すべくさまざまな方々の助言や支援をいただきながら、研修会や講演会の準備にとりかかりました。

現在当事業所が行っている放課後等デイサービスは、自立支援法から児童福祉法へかわったばかりであります。その中で、福祉的に今、困っている人を助けることも重要ではありますが、障がい児を育てる家族への理解と支援も重要であると考えました。

障がいがあっても健康で、健全に地域で暮らしていくため、保護者が孤立したり不安になったりせずに将来に向かって前向きに子どもを育てるための地域ネットワークが、今一番必要であるとの考えから、医療、福祉、行政、教育それぞれの分野の方々の教えをいただきたく、2回の研修会と3回の講演会を企画することにいたしました。

障がい福祉、医療、教育、地域住民の連携事業(安心・安全な子育てを支援する)では、2回の研修会を企画し、事業所内研修に位置づけて実施しました。

子どもの親に日々関わって、直接的に支援する私たち事業所内のスタッフが研鑽を積む必要があったからです。

まず、第1回目の講習会は、講師を遠軽町母子通園センターの山田順子氏に依頼し、「発達障がい」についてというテーマでお話をいただきました。

日々母子にかかわっている中での具体的な取り組みや事例などのお話をいただき、大変有意義な研修でありました。

第2回目の講習会は、地元北見市社会福祉課 障がい管理係長 高木美代子氏による「障がい者の福祉制度」についてのお話をうかがい研修しました。

子どもと接することは、多くても福祉制度については、学ぶチャンスが少ない環境にいる私達にとっては大いに勉強させられた研修会でした。

講演会は、3回企画実施しました。

第1回目は、北海道高機能広汎性発達障がい児親の会 会長 村田 昌俊氏の講演をいただきました。自ら発達障がいの親であり、親の苦労や子育ての思い出などを振り返りながら、発達障がいの子どもを地域で支えることの大切さをお話しされました。夏の暑い日でした。会場に入りきれないほどの多くの来場者にてんてこまいの運営となりました。

第2回目は、北海道美瑛町東小学校 美瑛町そだちの教室で活躍されています教諭 目良久美氏の講演でした。途中、参加者全員が輪になってゲーム！？ などというリラックスした中での講演会は「あっ」という間の時間でした。講師の先生のエネルギッシュな姿に参加したみんなは元気を貰い、明日からの子育てに勇気と活力を培った2時間でした。参加していた遠軽町のお母さんが感動し、後日遠軽町でも目良氏の講演会を企画されたと聞いています。

第3回目の講演会は、市立旭川病院 精神科 診療部長 武井 明氏の講演をいただきました。医師として臨床現場からのお話でした。「思春期外来から見た最近の子どもたち」というテーマでお話されました。

子どもたちの置かれている現状、なぜ発達障がいが増えたのか、母親に対する初期支援のありかたなど興味関心の深いテーマにそって、たくさんの資料を準備され大型プロジェクターを使っただけの講演は、日頃 なかなか聴けない内容で新鮮な感動を覚えながらの講演会でありました。武井先生の人間味あふれる人柄に接し、遠い旭川ではありますが、先生の診察を受けてみたいと話している母親の姿もありました。

今回の事業には、北見市、北見市教育委員会はじめ北海道児童相談所など、多くの方々の後援もいただきました。諸団体に感謝申し上げるとともに、今回私達の団体にこのような事業の助成をいただきましたことに厚くお礼を申し上げます。

今回の研修会や講演会で構築したことを、忘れることなく今後はさらに研鑽を積んで地域に愛されるNPO法人 こぼととして福祉活動を更に邁進していく所存であります。

代表理事 江頭 義人